

# 寒川文書館だより

Vol. 18

取次小帳 2/10.1

神

第292号 寺院梵鐘受領調書 昭和18年3月10日

(住所) 神奈川県高座郡寒川町大蔵部落 (正)

(寺院名) 大蔵部落殿 金屬回收統制株式會社

物 件 名	個 數	重 量	單 價	金
梵 鐘	1	157-	890	13970
合計				14973

本書ハ供出寺院ニテ保存ノコト

梵鐘受領調書（昭和18年、大蔵自治会文書）

■ 第18号目次 ■

資料紹介「大蔵旧諏訪社の梵鐘の供出」	2
企画展「記録が語る銃後」	3
広域連携事業「寒川と茅ヶ崎の浜降祭」	4
文書館運営審議会が改選	6
国際アーカイブズの日特設サイト	6

第18号  
2015.9.30  
寒川文書館

# 大蔵旧諏訪社の梵鐘の供出 (昭和18年・大蔵自治会文書)

昭和12年(1937)の日中戦争勃発以降、戦車や飛行機、弾丸等の材料として金属資源の確保が重要視された。金属資源に乏しい日本は必要な金属類を全国から回収して賄うことになった。日米開戦前、昭和16年(1941)8月30日に金属回収令が公布され、公共施設や工場、会社、次いで一般家庭の金属製品が回収された。その翌年、昭和17年5月9日からは寺院の仏具や梵鐘なども強制的に回収されていった。

寒川町でも神社総代・区長・寺院教会宛に、同年12月3日付けで梵鐘供出の通知が発せられ、供出の梵鐘は唐金(青銅)扱いとすること、梵鐘に供出寺院名を明記した札や紙を貼付するか、ペンキで直接明記すること、梵鐘の重さ別の撤去費が支払われることが通知された。

表紙の史料は、それに応じて大蔵部落が供出した梵鐘の受領調書である。金属回収統制会社から大蔵部落に対して梵鐘の代金が支払われたという内容である。この受領調書によると、支払いの日付は昭和18年3月10日で、梵鐘の重量は157キログラム、100キログラムあたりの単価は89円で、買い取り金額は139円73銭となった。それに取外し料10円が加算され、支払い合計金額は149円73銭となった。

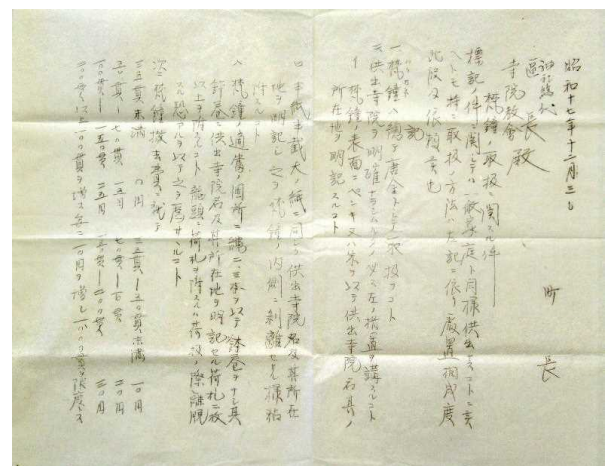
供出された梵鐘の概要については、前掲の通知と一緒に残っている梵鐘届から確認できる。梵鐘の総高は三尺四寸(約103cm)、口径一尺八寸五分(約56cm)、厚さ一寸九分(約5.8cm)で、銘文には「鎮守大六天 天保六乙未年 十一月吉日」と記載されている。銘文の「鎮守大六天」とは、江戸時代の『新編相模風土記稿』に大蔵村の鎮守としてあげられる「第六天社」のことで、明治期の史

料では「諏訪社」とも記載されている。この諏訪神社は、明治42年(1909)に岡田の日枝神社、小谷の稻荷神社などと合祀され菅谷神社となった。諏訪神社が合祀された以降そのまま残された梵鐘を供出したのである。

回収(買取)の実務に当たったのは金属回収統制会社である。同社は回収を一元的に行うために、昭和17年7月に日本鉄屑統制会社と日本故銅回収統制会社、戦時物資活用協会の三者が合併して設立された統制会社である。(昭和17年7月14日読売新聞など) 統制会社とは物資の需給管理と物価統制のために、各事業の独占権を与えられた民間会社で、回収(買取)の他に製造・配給・原材料・貿易などの統制会社があった。(昭和18年7月22日 東京朝日新聞など)

金属供出の代金は「銅鉄を供出した代金は国債、債券にかへ二重にお国へ御奉公しよう」というスローガンのもと、戦時国債の購入や貯蓄に充てられることになる。この梵鐘の代金も例外ではなかったであろう。

(鳥養圭美)



梵鐘供出の通知 (昭和18年)



<第19回企画展>

記録が語る銃後 — 大蔵自治会文書にみる戦時下のくらし —

「銃後」とは、直接の戦闘に加わらず背後でこれを支援する体制のことをさします。寒川からも多くの人が戦地へ向かった一方、地域に残った人たちも国家総動員体制のもと、さまざまな制約を受けながら戦争一色の生活をしていました。

大蔵自治会には当時の暮らしぶりを物語る貴重な記録がたくさん残されています。戦後70年という節目を迎える今年、この記録を中心に戦時下という時代を振り返りました。

会期：平成27年8月2日(日)～10月24日(土)

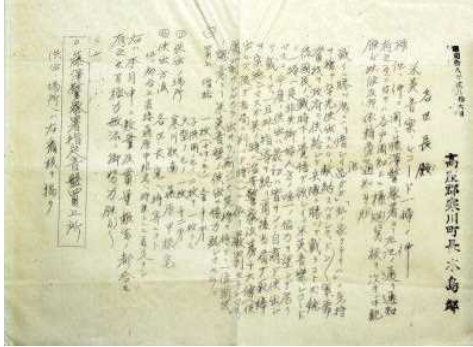
- <展示構成>
- I 大蔵について
  - II 大蔵自治会文書
  - III 常会と隣組
  - IV 物資の統制
    - 農業統制と食糧統制
    - 物資の供出
    - 生活物資の配給
    - 貯蓄と債券
  - V 戦局の進展
    - 灯火管制と空襲
    - 築城への動員
    - 出征と帰還
    - 国民義勇隊
  - VI 終戦を迎えて
  - VII 復興に向けて
    - 民主的選挙の実施
    - 部落会の解散
    - 諸制度の改革



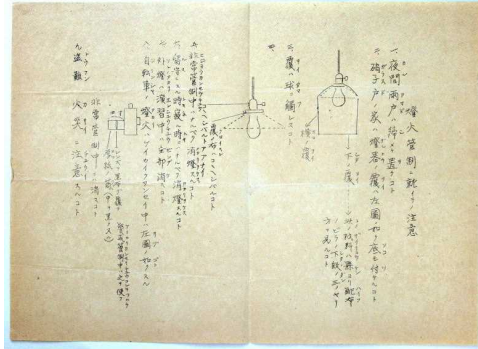
大蔵の位置



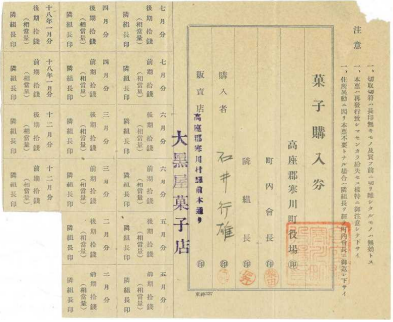
貯蓄債券・報国債券パンフレット



米英音楽レコード回収を知らせる通知  
昭和18年(1943)



灯火管制についての注意



菓子購入券 昭和18年(1943)

## 寒川と茅ヶ崎の浜降祭

平成26年度から茅ヶ崎市・寒川町広域連携事業の「歴史・文化財等普及事業」が始まりました。平成27年度からは両市町に共通の歴史的素材をテーマに展示を開催することになり、その1回目のテーマとして浜降祭を取り上げました。浜降祭は、7月の海の日に関寒川と茅ヶ崎の三十数社の神輿が茅ヶ崎の海岸で禊ぎを行う神事です。両市町の人びとにとって大変思い入れが強いいため、共通の展示にふさわしいテーマといえます。寒川は寒川文書館、茅ヶ崎は茅ヶ崎市文化資料館を会場に、同じ会期で別々の展示を行うとともに、記念講演を合同で実施するという方法をとりました。

会 期：平成27年6月27日(土)～7月26日(日)

講演会：平成27年7月11日(土)

\*この事業は(公財)神奈川県市町村振興協会の市町村広域行政助成事業の助成を受けて実施しました。

### 寒川文書館第18回企画展

## 「浜降祭 寒川の記録資料から」

寒川神社には明治14年(1881)から昭和26年(1951)までの「浜降祭日記」が残されています。この史料には、毎年の祭礼について、準備の過程や当日のようすなどが詳しく綴られています。この日記をはじめ、寒川に残されたさまざまな資料から、祭礼の起源、日程の変遷、参加する神社の変遷など、多角的に祭りを紹介しました。



明治14年浜降祭日記



菅谷神社の天保神輿



昭和50年寒川駅前のパレード



## 茅ヶ崎市文化資料館企画展

# 「写真からみる茅ヶ崎の浜降祭」



茅ヶ崎での展示は、大正時代以来の祭礼の写真約60点を紹介するとともに、祭りの概要、起源、禊ぎの意味、鈴木孫七家の役割、南湖で行われる「御幣参り」などについての解説などがありました。展示ケースには、寒川神社の神輿が着座する位置に敷かれるハマゴウの標本なども紹介されていました。

会場で配布されたパンフレットは次のURLからダウンロードできます。

[http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/013/774/leafhamaori2015.pdf](http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/774/leafhamaori2015.pdf)

## 講演会「寒川と茅ヶ崎の浜降祭」

7月11日(土)、茅ヶ崎市コミュニティホールにおいて、展示関連の講演会を開催しました。62名の参加があり、終了後も活発な質疑が交わされました。講師とテーマは次のとおりです。

- 「浜降祭日記からみた祭礼の移り変わり」  
圭室文雄氏（明治大学名誉教授）
- 「浜降り神事について－相模湾沿岸を中心に－」  
鈴木通大氏（神奈川大学講師）

\*講演録は『寒川町史研究』第28号に掲載予定です。



## 絵はがき集「浜降祭 1936」



本事業の関連企画として絵はがき集も発行しました。寒川神社が所蔵する昭和11年(1936)撮影の浜降祭の写真から8枚を選び絵はがきに仕立てたものです。この写真は報知新聞社が取材のため撮影したもので、神輿を担ぐ人、見守る人など、南湖の海岸に集まった人たちの姿が生き生きと記録されています。中でも仮装して担ぐようすは、現在の姿と異なり貴重なものです。

1組500円。寒川文書館で販売中です。

# 文書館運営審議会が改選

平成27年7月3日、総合図書館会議室において、寒川文書館運営審議会委員の委嘱状交付式ならびに今年度第1回（通算第17回）会議が開かれました。

この審議会は、町民や専門家の意見を反映し、より良い文書館運営を行うため、年間事業計画等を審議したり、町からの諮問に答申したりする機関です。任期は2年となっています。

当日はまず木村俊雄町長が委嘱状を手渡したあと、あいさつがありました。次いで、正副会長の互選に移り、会長に木村勇氏、副会長に小川千代子氏がそれぞれ再任されました。

会議では、平成26年度事業結果の報告と27年度事業計画の審議が行われ、活発な質疑を経て、いずれも了承されました。

## 寒川文書館運営審議会委員名簿

選出区分	氏名	備考
町立小中学校長	中村 武仁	小谷小学校校長
寒川町史編集委員会委員	木村 勇	
学識経験を有する者	小川千代子	藤女子大学教授
ボランティア又は資料所蔵者	佐原 慧	寒川神社方徳資料館
公募による町民	森 和彦	
	西山 悦子	

敬称略、任期：平成27年6月29日～平成29年6月28日



委嘱式での町長あいさつ

## 国際アーカイブズの日 ICA特設サイト

6月9日は「国際アーカイブズの日」です。2007年に国際公文書館会議（ICA）が定めたもので、世界中のアーカイブズ機関が活動のPRをする日となっています。

2014年から開設された特設サイトでは、世界各地のアーカイブズ機関が、自館の所蔵資料や特徴的な活動の写真を1枚投稿できるようになり、今年、寒川文書館も初めて参加しました。

投稿したのは昭和15年9月30日の村議会議事録です。この日、村議会で町制を布くことを議決しており、この記録こそが寒川町の原点と言えます。今年はそのから75年の節目を迎えます。



[http://www.internationalarchivesday.org/wordpress/?page\\_id=25](http://www.internationalarchivesday.org/wordpress/?page_id=25)

## 文書館 最近のできごと

### ■資料燻蒸 6月8日(月)～12日(金)



蔵書点検のための休館期間を利用して、今年も資料の燻蒸を実施しました。専門業者に委託し、収蔵庫内に建てたビニールテントに公文書や古文書などの資料を入れ、燻蒸剤を投入することで、虫やカビから資料を守ります。今回燻蒸作業の対象となった資料数は文書保存箱で約350箱。防虫等の効果は公益財団法人文化財虫害研究所に判定してもらい、9月末に報告書が提出されました。

### ■中央大学施設見学 7月5日(日)



中央大学の授業の一環として、24名の学生が施設見学に来館しました。この授業では日本経営協会のファイリングデザイナー一検定に合格することを目標に掲げていますが、ほとんどの学生が公文書館や公文書管理の現場を見るのは初めてということでした。そこで、現用文書の保管方法、ファイル基準表の書き方、文書館への移管方法など、実務的な業務の流れを中心に説明しました。

### ■寒川高校インターンシップ 7月28日(火)・8月26日(水)



県立寒川高等学校の生徒2名がインターンシップとして文書館の業務を体験しました。初日は、まず文書館の業務の概要について説明したあと、マイクロフィルムをガス吸着シートにくるむ作業、他課から移管された写真をスキャンする作業を行いました。2日目は、マイクロフィルムの巻き替え、行政刊行物の選別などを手がけました。いずれの作業も、大変熱心に、かつ丁寧に取り組んでくれました。

### ■図書館ミニ展示「統計を学ぶ」 9月16日(水)～10月16日(金)



今年の10月1日を調査期日として第20回国勢調査が実施されるのを機に、文書館エレベータホールにおいてミニ展示「第1回国勢調査」を開催中ですが、その関連企画として総合図書館1回の展示コーナーで図書展示「統計を学ぶ」を開催しました。図書館と文書館が所蔵する国勢調査や統計学などに関する本46冊を展示し、その場で借りてもらえるようにしたものです。書棚にはミニ展示への来場を促す掲示や、国勢調査のPRチラシも貼り出しました。



## 今後の事業予定

### ■開催中の展示

#### 第19回企画展 「記録が語る銃後—大蔵自治会文書にみる戦時下のくらし—」

大蔵自治会には、物資の配給・供出、本土決戦への対応、戦後の新制度など、役場からの通知文書を中心に、戦中・戦後の暮らしぶりを物語る貴重な記録がたくさん残されています。戦後70年の節目に、この中から約70点を紹介しています。

会期：平成27年8月2日(日)～10月24日(土)

#### 第16回ミニ展示「第1回国勢調査—大正9年—」

今年の10月1日を調査期日に、第20回国勢調査が実施されますが、大正9年の第1回はどのようにおこなわれたのか、当時の公文書をひもといてご紹介します。

会期：平成27年9月16日(水)～12月27日(日)

### ■新刊のお知らせ

#### 『寒川町史調査報告書』21「大蔵自治会文書(1)」

上記展示のベースになった大蔵自治会文書のうち、昭和16年12月の日米開戦から、昭和22年4月の町長公選までの5年5か月の記録170点を活字にしました。

頒布開始：平成27年10月1日

頒布場所：寒川文書館窓口

価 格：500円

### ■平成27年度後半の事業予定

平成27年度後半は次の事業を実施する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しくは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

○資料活用講座(全4回。11～2月の原則第4土曜)

○企画展「寒川町75年の軌跡」(11月～3月)

○懐かし映像上映会(11月、図書館と共催)

## 編集後記

「寒川文書館だより」第18号をお届けします。今夏は戦後70年の節目ということで、テレビや新聞の報道も、博物館や公文書館の展示も、このテーマ色という感がありました。寒川文書館の企画展示や報告書刊行も、この時期に合わせたものでしたが、当館に寄託を受けている大蔵自治会文書の特徴を十二分にアピールすることができたのではないかと考えています。今後もこの貴重な史料を多くの方々に活用していただけるよう、尽力してまいります。

## 利用案内

### ■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時  
土・日・祝日 午前9時～午後5時

### ■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
特別整理日(決まり次第お知らせします)

### ■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス・

神奈中・相鉄バス 海老名駅—寒川駅線

「図書館文書館前」下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



### 寒川文書館だより 第18号

平成27年9月30日

編集・発行/寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール [bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp](mailto:bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp)